

## マルクス主義者の綱領作成上のポイント

——マルクス主義者は、二つの極端を避けなければならない。——

……われわれが彼らにむかって、われわれの農業綱領のなかで問題になっているのは、ブルジョア体制との闘争ではなくて、農村をブルジョア体制の諸条件のなかに引き入れることであると、かたってきかせるというと、彼らは、自分らの当惑がナロードニキ的世界観とマルクス主義的世界観との闘争の単なる反響にすぎないことをさとらないで（彼らに固有の理論的無関心からして）、ただ眼をこするだけなのである。……

マルクス主義者にとっては、任務は、ただつぎの二つの極端を避けることにしかない。すなわち、一方では、プロレタリアートの見地からすれば非プロレタリア的な、当面の一時的な任務などはわれわれになんの関係もない、と言う人々の誤りに陥らないこと、他方では、当面の民主主義的任務の解決へのプロレタリアートの参加が、彼らの階級意識とその階級的独自性をくもらせることのないようにすることである。本来の土地関係の分野では、この任務はつぎのことに帰着する。すなわち、現存社会を基盤にしながら、農奴制度の残存物をもっとも完全に一掃し、一体としての農民大衆のうちから農村プロレタリアートをもっともすみやかに離脱させるような、そういう土地改革のスローガンをあたえることである。

われわれの綱領はこの任務を解決したと、私にはおもわれる。だから、もし農民委員会が切取地ではなくてすべての土地を要求したら、どうするのか、という同志イクスの質問は、われわれをすこしも当惑させない。われわれは自身でもすべての土地を要求する。ただそれは、もちろん、「農奴制度の残存物を除去することを目的として」（われわれの綱領の農業の部は、こういう目的に限定されている）ではなく、社会主義的変革を目的としてのことである。そしてわれわれは、いづどんな事情のもとでも、まさにこの社会主義的変革の目標を、倦むことなく「貧農」に指示しているし、今後も指示していくであろう。社会民主主義者は自分の綱領の農業の部だけをもって農村にはいっていきことができるのか、社会民主主義者は自分の社会主義の旗をたとえ一分間でも捲くことができるのか考えるなら、これ以上の大きな誤りはない。すべての土地という要求が、国有化の要求、あるいはこんにちの経営上手の農民に土地を引きわたせ、という要求となるようなら、われわれは、あらゆる事情を考慮に入れたのちに、プロレタリアートの利益の見地からこの要求を評価するであろう。たとえば、革命がわが国の経営上手な農民を政治生活にめざめさせるとき、彼らが民主主義的革命党として登場するか、それとも現秩序の党として登場するかどうかを、われわれはまえもっていうことはできない。われわれは最悪のばあいにも備えがあるように自分の綱領を作成しなければならない。そして、もしよりよい組合せが実現されるなら、それはわれわれの活動を容易にし、これに新しい刺激をあたえるだけであろう。（第六巻 われわれの綱領草案にたいする批判への回答 P460~461 1903年6月執筆）

## コメント

私たちは、つぎの二つの極端を避けなければならない。つまり、「一方では、プロレタリアートの見地からすれば非プロレタリア的な、当面の一時的な任務などはわれわれにな

んの関係もない、と言う人々の誤りに陥らないこと、他方では、当面の民主主義的任務の解決へのプロレタリアートの参加が、彼らの階級意識とその階級的独自性をくもらせることのないようにすることである。」

社会民主主義者は自分の綱領の当面の民主主義的要求だけをもって国民の中にはいっていくことができると考える以上の大きな誤りはない。社会民主主義者は自分の社会主義の旗をたとえ一分間でも捲くことはできない。

## 正しい理論的解決は煽動の確固たる成功を保障する

……なぜなら、正しい、理論的解決は煽動の確固たる成功を**保障する**からである。ところで、われわれは、まさにこの確固たる成功をめざして努力しているのであって、一時的な不成功にはすこしもうろたえるものではない。

同様に同志リーベルも、ずっと以前に拒否されている反論をくりかえして、われわれの綱領の「貧弱さ」に驚き、農業の分野でも「根本的な改革」を要求した。同志リーベルは、綱領の民主主義的部分と社会主義的部分との差異をわすれてしまったのだ。彼は、民主主義的綱領のうちに社会主義的なものがないということ、「貧弱さ」とみた。彼は、われわれの農業綱領の社会主義的部分が他の箇所にあること、すなわち、労働者の部にふくまれていることに気がつかなかった。この部は農業にも関係があるのである。ただ社会革命党だけが、彼らの持前の無原則性から、民主主義的要求と社会主義的要求を混同することができるし、また不断に混同しているのであって、プロレタリアートの党は両者をきわめて厳密に分離し、区別する義務がある。 第六巻 ロシア社会民主労働党第二回大会

16 農業綱領審議にさいしての第一の演説 7月31日（8月13日）

### コメント

I 正しい、理論的解決は煽動の確固たる成功を保障する。

II プロレタリアートの党は民主主義的要求と社会主義的要求とをきわめて厳密に分離し、区別する義務がある。同時に、社会主義的要求を持つ社会民主主義者だからこそ、最も徹底的に民主主義的要求を主張することができ、最後まで主張することができるということも常に表明する義務がある。

### 第41巻 P67

五 党綱領の総論部分の審議にさいしての発言 七月二十九日（八月十一日）

この挿入は改悪である。それは、意識が自然発生的に成長するかのような観念を生みだす。だが国際社会民主主義にあつては、社会民主党の影響からはなれては労働者の意識的活動は存在しない。